

【教育目標】≡ ひとと協力する子 ♡さいごまでがんばる子 ♡わかろうと真剣に学ぶ子

桧っ子だより 特別版

平成27年7月13日(月)

桧沢小学校だより No.5

文責：校長 星 俊夫

☆松田 歩さんの主張 南会津町青少年の主張大会



7月5日(日)御蔵入交流館文化ホールで町の青少年主張大会が行われました。

桧沢小学校は、松田 歩さんが代表として参加しました。

全文暗記して臨んだので、原稿に全く目をやることもなく、正面をしっかりと向いて丁寧に発表していました。

大人でさえ、躊躇してしまいそうな大きなホールで、堂々と発表してい

た姿は、本当に頼もしい6年生の姿でした。学校と家で一生懸命練習していたからこそ、自信をもって参加できたのではないかと思います。そんな努力に心から大きな拍手を送ります。優秀賞受賞おめでとう！以下発表原稿全文です。

未来(あした)に向かって

桧沢小学校 松田 歩

輝くひとみ 仲間たち
桧のように まっすぐに
笑顔に夢を はぐくんで
未来にむかって 駆けていく
私たち南会津の子われらの桧沢小学校

これは、3年前に生まれたばかりの桧沢小学校の校歌です。

私は、「未来」と書いて、「あした」と読む所がすごく好きです。そして、もう一つの好きな所は、「私たち南会津の子」という所です。初めてこの校歌を聞いた時、「桧沢の子も針生の子も同じ南会津の子なんだ。一緒に仲良くがんばっていこう。」と思ったことを覚えています。針生小学校と統合することになった時、一番さみしかったのは、「校歌がかわる」ということでした。

私は、三人兄弟の末っ子なので、本当に小さい頃から、旧桧沢小学校の校歌を聴いていました。兄や姉が口ずさむ「元気な子・明るい子・かしこい子」という部分が好きで、私もそんな子供になりたいと思いながら一緒に歌っていたのです。

「校歌がかわるということは、今まで、受け継がれてきた伝統がなくなってしまうことではないか。」という想いもありました。

今年、私は6年生になりました。統合して3年目です。6年生になって、私は、改めて「伝統」について考えさせられたのです。例えば、委員会での話し合いです。これまでの6年生は、なかなか意見が出ない時に、私達をリードして意見を出してくれました。すると、下学年も「6年生みたいにならぼう。」とやる気を出すので、委員会がすすいと進むのです。

自分の中では考えが浮かんでいても、口に出せずにいると、6年生は気づいてくれて、「思いついたことがあったら、話してね。」と、私に声をかけてくれました。そこで、私は、勇気を出して、発表することができたのです。6年生が先に立って、下級生をリードするということを、私は知らないうちに上級生から学んでいました。



※前校長 室井榮子先生 手縫いの応援旗にある文字は、歩さんの主張と同じ思いで繋がっているようです。

どんぐり班での活動でも同じです。どんぐり班というのは、1年生から6年生を縦割りにして作った活動班のことです。私たちの学校では、毎日の掃除やいもに会、なわとび記録会などをどんぐり班で行います。なわとび記録会で低学年のとんだ回数を数えるのは、同じどんぐり班の上級生です。

いつも、一緒に掃除をしたり、あそんだりしているお兄さんやお姉さんに応援されると、いっそうやる気がでます。

なわとび記録会では、班ごとの大縄跳びもおこなわれます。上級生は、下級生が縄に入るタイミングがつかむことができるように、背中を押してあげます。縄を回す人は、小さい子が跳びやすいように考えて回します。どんぐり班の絆が試される活動です。

「**下級生を思いやって活動する。**」ということも私は学んでいたのです。

5月に行われた運動会では、全校生48人で力を合わせて鼓笛の演奏をがんばりました。私は主指揮でした。腕をしっかり上げて、足をしっかりあげて行進すると、腕も足も痛くなります。でも、1年生も2年生もがんばっているのです。赤い顔をして、太鼓に合わせて、歩いているのです。大太鼓やガードの友達も、みんな一生懸命でした。運動会当日はとても暑かったのですが、みんなの心が一つになって、立派な演奏ができました。「**一生懸命がんばる**」ということが、桜沢小学校の伝統になっていることを感じました。

私は、6年生になって「伝統は自分たちで作り、そして伝える」ということを知りました。

桜沢小学校3期生として、11人の仲間と一緒に、新しく生まれた伝統を下級生にしっかり伝えていかなければならないと感じています。

「未来」という明日に向かって！。

子どもたちと一緒に上記の思いを具現することが、学校の使命です。子ども・教職員・保護者が一つになって、「人を思いやるやさしさ」「一生懸命がんばる」ことを教育風土、伝統として繋いでいきたいです。やがては学校を巣立ち、教師、親のもとを離れ社会へと巣立っていく子どもたち。荒波立つ社会を生き抜くための大きな力となることを願って、改めて、そんな思いを胸にいただきました。